



「見透せぬ窓A」 前田さなみ 一見透せぬ窓 前田さなみ展一



「明画十六羅漢図」 總持寺祖院蔵
冬の優品選一仏画・肖像画を中心に一

特集展示

見透せぬ窓 前田さなみ展

橋本雅邦の襖絵

冬の優品選 一仏画・肖像画を中心に一

- コレクション展示室 主な展示作品
- 12月の企画展示室
- 企画展Topics 〈2〉
- 展覧会回顧「東典男の世界」
- 文化財現地見学旅行報告
- ミュージアムレポート
- 行事案内

冬の優品選

—仏画・肖像画を中心に—

12月2日(木)～12月23日(木・祝)
会期中無休

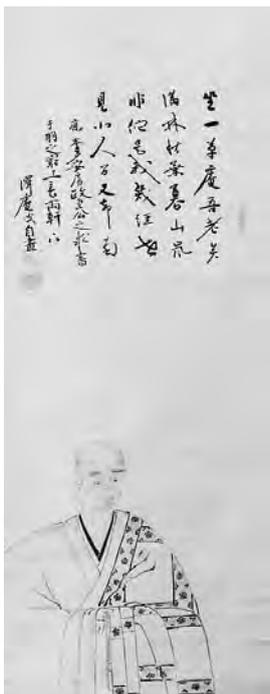
今回は展示作品のなかから「仏画と肖像画」を紹介します。

「仏画」は、仏教絵画の略で、広い意味では仏教関係の絵画全般を指しますが、通常は、礼拝の対象とされる仏教諸尊の画像をいいます。ことに古代から中世にかけて、質の優秀なものが数多く、日本絵画史的にも重要なものが少なくありません。

一方、実在の人物を写して後世に伝えようとするところから生まれた「肖像画」は、我が国において、信仰や崇拜・追慕・記念などの目的で生まれました。天皇をはじめ公家の肖像・祖師像・高僧像・頂相・武将像・武家の夫人像、学者・医者・町人・文人・芸能人などの肖像というように多種多様な内容のものが描かれ、絵画史的にも重要なものが数多くあります。

当館では、県内の寺社や個人の方々から、文化財保護の目的で、仏画や近世の武人、その夫人の肖像画などの寄託を受けて保管しており、この分野の所蔵品が少ない部分をカバーしています。今秋開催した「加越能の美術」でもその一部をご覧いただくなど、機会あるごとに展示公開して参りました。

今回、仏画では「仏涅槃図」(高巖寺蔵)「阿弥陀三尊来迎図」(西念寺蔵)「十六羅漢図」(總持寺祖院蔵)、「肖像画」では「大智禪師頂相」(鶴林寺蔵)「奥村永福画像」(永福寺蔵)などを展示します。



「沢庵和尚自画像」 沢庵宗彭筆

橋本雅邦の襖絵

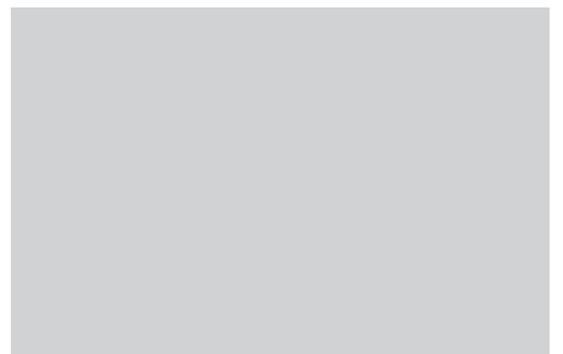
12月2日(木)～12月23日(木・祝)
会期中無休

今回展示される一連の襖絵は、明治四十三年(一九一〇)に東京本郷の前田侯爵邸へ明治天皇が行幸されるに際して新築された和邸のために橋本雅邦が描いたものです。襖絵は障子の腰、戸袋を含めて三十面伝えられており、四季の景を水墨で描き、一部に薄く金泥を引いています。

筆者の橋本雅邦は一八三五年江戸木挽町の狩野邸に生まれ、やがて狩野勝川院雅信に入門しました。しかし当時の狩野派の粉本主義に飽きたらず、独自に日本の先人や西洋画の技法を積極的に学びました。その後フェノロサに認められ、東京美術学校教授に就任しました。しかし一八九八年のい

わゆる「東京美術学校事件」により依願免官の形で教授職を辞し、以後日本美術院主幹として、横山大観、下村観山、菱田春草ら多くの逸材を育て一九〇八年に没しました。

したがって今回展示される襖絵は、雅邦最晩年の作品であることがわかります。狩野探幽以来の減筆体の手法を念頭に置いて、全体を描きすぎることなく、柔和な筆致で鑑賞者に安らぎを与えようとの画家の意図が伝わってきます。



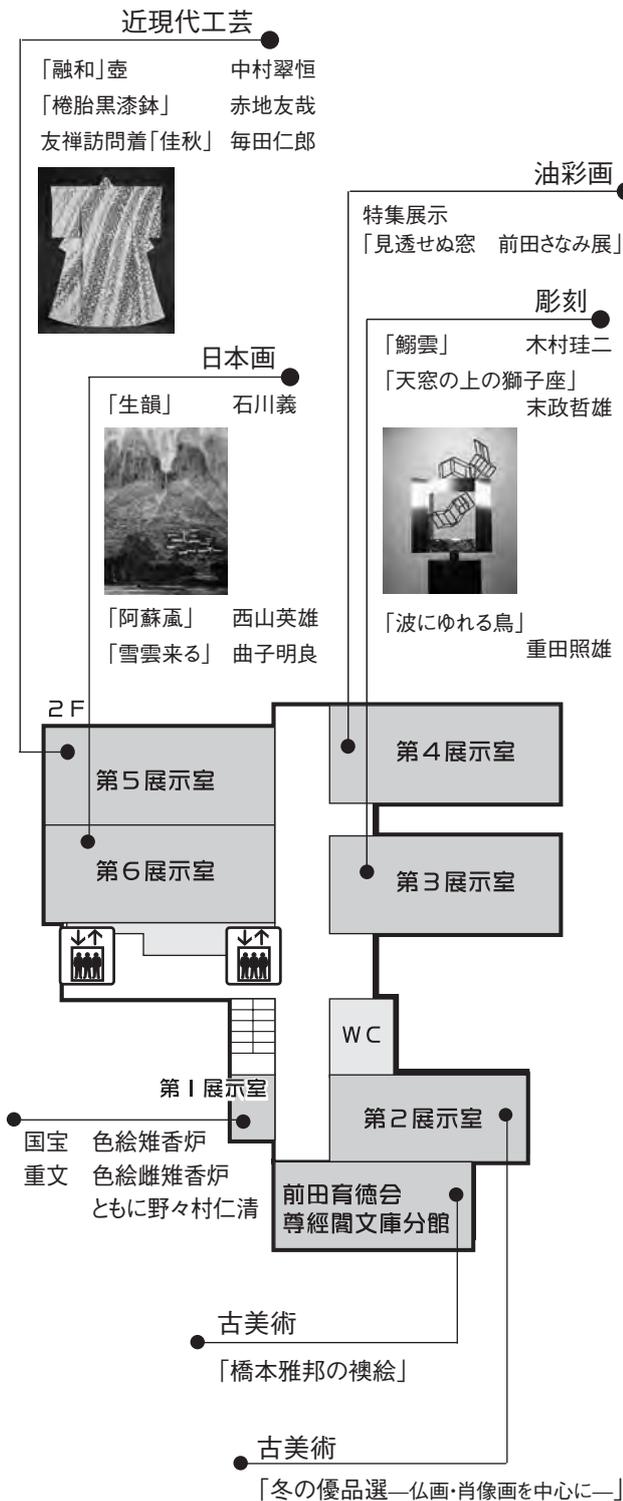
「冬景山水図」(2面)

主な展示作品

12月2日(木)～12月23日(木・祝)
会期中無休

見透せぬ窓 前田さなみ展

12月2日(木)～12月23日(木・祝)
会期中無休



虚像と実像を交錯させて、社会的テーマを描き続ける前田さなみ氏の創作の歩みを、代表作二〇点によりご覧いただけます。

一九七〇年代末から始まる、ショーウィンドウを媒体に、ガラスを通して見える世界と写り込む世界を混在させた「見透せぬ窓」シリーズによって、前田氏は独自の世界を確立しました。以後、現代社会が抱える病巣、繁栄とは裏腹の環境汚染や戦争に対する強い抗議が作品に込められています。白いマネキンに汚水を流す湾岸の工業地帯を描く作品群は、最も社会性を先鋭にしたものといえましょう。その後、観音菩薩や仁王像、地藏菩薩などが画面に登場し、抗議から祈りへと画家の視点は移行していきます。近年は色彩が華やき、

平和の賛歌というべき境地へ前田氏は歩みを進めているように伺えます。

大胆な色彩と造形によって、たゆまぬ歩みを示す前田氏の絵画世界をぜひこの特集でご覧いただきたいと思えます。

作家略歴

昭和五年東京都生まれ。父母は共に石川県七尾市出身。戦時中七尾に疎開し、二十二年金沢美術工芸専門学校に入学、二十七年短大となった同校油絵科卒業。高光一也、清水鍊徳に師事。二十七年第二十回独立美術協会展初入選、以後独立展に出品を続け、五十八・五十九年小林賞、六〇年中山賞。六十三年独立賞。女流画家協会へも出品を続け、現在同会委員、独立美術協会会員。



「窓」1983年 石川県七尾美術館蔵

第8・9展示室

第20回記念

石川独立DO展

12月2日(木)～6日(月)会期中無休

十二月の 企画展示室

この度石川独立DO展は第二〇展を迎えます。これにあたり、今回は近年独立展本展において受賞し活躍目覚ましい若手作家の作品を、招待出品として展示します。既存の石川独立メンバーも一人五～六点、計六〇点程の作品を展示します。

また会期中の十二月四日(土)には批評会を行います。

◆出品作家

石川独立

大部雅子、金子顕司、京岡英樹、桑野幾子、

田井 淳、西又浩二、堀 一浩、前田とらなみ、

三浦賢治、水野寿代、山田裕之

招待出品作家

浅見千鶴、河合規仁、白藤ささ子、棚澤 寛、

波田浩司、目黒礼子

◆入場料無料

◆連絡先 堀 一浩

TEL 〇七六一二二二一九〇九一

東京写真研究会が主催する研展は、関東・中部・関西・北陸の四支部で構成されています。公募展は、会員部門と公募部門に分けられていて、今回は三四三点の作品が展示されます。北陸部においての入賞者は、会員部門は四名、公募部門は七名となりました。

合評会は十二月十二日(日)午後二時より行います。

◆入場無料

◆連絡先 金沢市東山二丁目二一八 土田貴夫

TEL 〇七六一二五一〇七二三

会長丹羽俊夫(新院展会長)、理事長三宅厚史、事務局長今村文男をはじめ、石川、富山、福井、岩手、広島、九州などから、幅広い年齢層の日本画を約一〇〇点余り展示します。

◆主な出品者

北出朝之、保科 誠、柴田輝枝、南 好乃、

中村勝代、松尾功二朗、福井淳二、村中博文、

伊藤夏子、牛丸美代子、大窪昭子

◆入場無料

◆連絡先 金沢市窪一―二二三 丹羽俊夫

TEL 〇七六一二四四―五九一六

第7～9展示室

第34回

公募日創展

12月19日(日)～12月22日(水)
会期中無休 午後6時閉室

第8・9展示室

第95回

公募写真展研展

12月9日(木)～12月15日(水)
会期中無休 午後6時閉室

企画展Topics 〈2〉

加越能の美術

「石川・富山の美100選

—明治から現代の絵画・彫刻・工芸—

会期:2011年1月4日(火)~2月7日(月)



「二菩薩釈迦十大弟子」棟方志功
南砺市立福光美術館蔵

明治時代から現代までの石川県と富山県の二二作家、一二四点の作品を展示しますが、各部門・時代等で、石川県のこの作家と富山県のこの作家というように比較対照しながら、ペア、グループとして鑑賞するのも一つの鑑賞法と思われまますので、主な出品作家の紹介を兼ねて列記いたします。

明治時代の金工は、金沢の職人が高岡へ移住して製作したり、高岡の間屋が金沢で金沢の職人を雇い製作をしたりと、金沢と高岡は非常に密接な関係を持っていました。今回は金沢銅器会社と二代横山彌左衛門、同じく金工では人間国宝の魚住為楽・中川衛と金森映井智・大澤光民。陶磁では板谷波山・富本憲吉と石黒宗麿。漆工では日本工芸会の松田権六と日展の山崎覚太郎。山崎は、石川県の金属造形家・蓮田修吾郎とともに昭和三十六年に現代工芸美術家協会を設立しています。同じく漆工では佐治賢使と彼谷芳水。木工芸では川北良造・氷見晃堂と横山一夢。日本画では北野恒富と石崎光瑤・郷倉千靱・郷倉和子。同じく日本画では西山英雄と下保昭。油彩画では宮本三郎・鴨居玲と前田常作。同じく油彩画では、師弟関係として高光一也と清原啓一・藤森兼明、この三名は日本藝術院会員となっています。彫刻では吉田三郎と松田尚之。以上の作家たちを中心に、両県の全国的に評価される作家たちの代表作を展示し、刺激を受けあい、切磋琢磨しながら展開してきた両県美術工芸の歴史と現状を紹介し、名作を鑑賞していただきます。



「空」山崎覚太郎 富山県水墨美術館蔵

「展覧会回顧「東典男の世界」

東典男といえば「裸婦」、それもあつからんとしたポツプ調の、大胆なポーズの裸婦を描く画家として、イメージが定着していたのではないのでしょうか。かつてアメリカで抽象を描いて大成した画家・版画家と耳にすることはありましたが、実作を見る機会はなく、晩年に東京で開いた裸婦展との乖離にとまどいを覚えたものです。不思議な画家として、判断保留のままにしていたのですが、昨年の夏に二百数十点の作品を調査する機会を得て、本展を開催することとなりました。

初期作品から晩年の裸婦大作まで、東氏の創作の歩みを示す初の回顧展でしたので、展示室にどのように作品が映えるか、興味深いものがありました。第4展示室を東展とし、向かいの第3展示室には対比の意味も込めて、師・高光一也や高光に伴われて指導を受けた中村研一、当時の美専(現・金沢美大)教授宮本三郎、そして同級生、先輩後輩達の作品を展示いたしました。

東氏の一色のバックに巨大な裸婦が描かれる作品をずっと見ていき、次に第3展示室の高光や宮本の裸婦を目にしますと、違いに驚きます。二人の巨匠の作品が、細かく描かれたミニアチュール(小さな細密画)を見ているように感じるのです。逆に第3展示室を廻った後に東氏の裸婦を見ると、いかにも荒い単純な作品という気がするのです。むしろそれはしばらくのこと、で、じきにそれぞれの世界に浸り込むことになるのですが、両者の違い、東氏の裸婦の変遷、日米の風土や視点の違いなど、しばし考える時間を与えてくれるのでした。



東典男の世界会場

第42回文化財現地見学旅行報告

「武将たちの文化をたどる—尾張・名古屋を訪ねて—」

平成22年10月16日(土)～17日(日)

今回の文化財現地見学旅行は、開府四〇〇年を迎えた名古屋市と犬山市へ出かけました。

朝七時三〇分にJR金沢駅を出発し、名古屋市内へ入ってまず昼食。その後徳川美術館へと向かいました。徳川美術館では今年度最大の展覧会である「名古屋開府四〇〇年 徳川美術館・蓬左文庫開館七十五周年記念秋季特別展 尾張徳川家の名宝 —里帰りの名品を含めて—」が開催中でした。当日は記念茶会も開かれて混雑しており、会議室にて副館長の四辻さんから徳川美術館の成り立ちと展覧会について、分かりやすい解説をしていただきました。常設展示室も併せた大規模な展覧会で、通常は毎年二月末、利休忌の前後二週間程度しか展示されることのない、千利休作「竹茶杓 銘泪」をはじめ、日本美術史上において重要な作品が一堂に会しており、あまりにも作品数が多いため、徳川苑（庭園）を観ることができない方がほとんどでした。

続いて名古屋ボストン美術館へ向かい、特別展「錦絵の黄金時代—清長、歌麿、写楽」を観覧しました。徳川将軍家が統治した江戸時代は、庶民の文化が栄えた時代でもあり、浮世絵はその象徴ともいえます。ボストン美術館のこのコレクションは、アメリカ国外での公開は初めてで、状態のい

い優れた作品ばかりです。清長、歌麿、写楽とその周辺に焦点を当てた密度の濃い展覧で、先に徳川将軍家の豪華な作品群を観ただけに、同時代を別の角度から観た、興味深い展覧会でした。

翌日はまず、名古屋開府四〇〇年記念展「変革のとき 桃山」が開催中の、名古屋市博物館を観覧しました。学芸員の小川さんより、スライドを交えた解説を受けた後、展示室へ向かいました。信長、秀吉、家康に関わる歴史的資料だけでなく、激動の時代の桃山を彩る、絢爛豪華な美術工芸品の数々を観ることができました。この展覧会も大変なボリュームで、最後は駆け足で観たという方もいました。

観覧後は犬山市へ移動して昼食をとり、国宝三名席の一つ、有楽苑の茶室、如庵へ向かいました。織田信長の実弟にして、利休に師事した数寄者、織田有楽斎（長益）が設計した茶室です。参加者を二つに分けて、庭園を散策するグループと、如庵を見学するグループに分かれ、茶室見学終了後交代してじっくり見学しました。如庵の見学は、さらに五～六人ずつに別れて中に入って説明を受けました。先の三つの展覧会がいずれも密度が濃いものであったため、ゆったりと庭園の散策を楽しむ方が多かったです。見学終了後、帰路に着き、到

着予定時刻の七時をやや越えましたが、無事に到着しました。

両日も晴天に恵まれ、また参加者の皆さまのおかげで、二日間の行程を完了することができました。今回は定員の1.7倍以上のご応募がありました。当初は犬山城の見学を予定しておりましたが、都合により名古屋市博物館の見学に変更いたしました。犬山城の見学を希望していた方々には、大変ご迷惑をおかけしました。この場をお借りしてお詫びいたします。次回以降も皆様の期待に応えられる内容を検討して参ります。



徳川美術館にて

ミュージアムレポート

学校出前講座「どこでもミュージアム」

県内の学校に当館作品を展示し、学芸員と鑑賞授業を行う学校出前講座「どこでもミュージアム」。十月は津幡町の津幡小学校と白山市の松南小学校の二校で実施しました。

十月十九日（火）に行われた津幡小学校は、古い町並みに溶け込む津幡城趾に建つ歴史ある学校。今回の展示会場となった校舎も老朽化が進み、新校舎の完成が明年春に予定されています。授業は六年生のクラスを対象に行いました。この学年は全体的に静かで落ち着いた印象。意見が出やすくなるように、アートゲームから始めます。それぞれが、作品から聞こえる音や言葉を出し合うゲームで緊張をほぐし、意見を出やすくします。その後に行った対話型鑑賞も、一点の作品をじっくり鑑賞し、意見を出し合うという経験があまりなかった子どもたちにとって貴重な経験になったようです。作品の見た手を手に入れた子どもたちは、その後の自由鑑賞でも友達同士で鑑賞を楽しんでいたようです。



十二月の行事予定

■土曜講座 午後一時三〇分〜 当館講義室 聴講無料	十八日（土）	都市と彫刻・モニュメント ―石川県・東京を中心に―	北澤 寛 学芸専門員
■ビデオ上映会 午後一時三〇分〜 当館ホール 入場無料	十九日（日）	世界・美の旅1 ルノワール 世界・美の旅2 セザンヌ 〜世紀末の女たち〜 〜12通の手紙〜	

十月二十二日（金）に行

われた松南小学校は、昨年



から二回目の授業になりました。奇しくもこちらの学校も建て替えの計画が進み、平成二十四年竣工予定だそうです。四年生三クラスを対象に行った授業では止めどなく意見が出てきます。「この絵は宇宙が爆発してなくなる様子」「今から宇宙が生まれるところ」と正反対の意見が出てきたり、「この靴は行進しているように見える」と子どもならではの意見が出たりと、対話型鑑賞を大いに楽しんでもらいました。

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 二五〇円（二八〇円）
大学生 二八〇円（三二〇円）
高校生以下 無料

※（ ）内は団体料金

今月の開館時間

午前九時三〇分〜午後六時

カフェ営業時間

午前十時〜午後七時

企画展Topics「加越能の美術—明治から現代の絵画・彫刻・工芸—」



「狛置物」関 義平
富山県立高岡工芸高校蔵



「彩瓷壺」石黒宗磨
東京国立近代美術館蔵



友禅訪問着「あじさい」
木村雨山



「想」松田尚之



「天の浮舟」前田常作
富山県立近代美術館蔵



「燦雨」石崎光瑠 南砺市立福光美術館蔵
(部分)

次回の展覧会

前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室 (古美術)	第4展示室 (近現代純粋美術)	第5展示室 (近現代工芸)	企画展示室
「前田家の雅」	「新春を寿ぐ」	「近代彫刻」 —空間と構成の美—	「香りをかざる」 —現代の香道具—	加越能の美術 「石川・富山の美100選」 —明治から現代の 絵画・彫刻・工芸—
会期: 1月4日(火)～2月7日(月)				会期: 1月4日(火) ～2月6日(日)

石川県立美術館だより 第326号 〒920-0963 金沢市出羽町2番1号
2010年12月1日発行(毎月発行) Tel:076(231)7580 Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

1月の休館日は
1日(土)～3日(月)です